

大臣隆致公女、貞享二年五月十七日叙從三位、同十八日准三宮、同廿二日薨、追號逢春門院、

〔續三宮傳〕新崇賢門院中御門帝御親母、諱賀子、寶永六年九月廿八日叙從三位、同六年十二月廿九日薨、同七年

正月廿三日葬于天台廬山寺、同年三月廿六日贈准三宮、同日門號新崇賢門院

〔續三宮傳〕新中和門院中御門帝女御、諱熙子、享保五年正月廿日准三宮宣下、同日薨御、同月廿七日門號定、

〔續三宮傳〕東京極院仁孝帝御親母、諱子、天保十三年十二月一日叙從三位、同十四年三月廿一日薨去、同年

四月廿一日贈准三宮、同日院號定、

〔續三宮傳〕新皇嘉門院仁孝帝女御、諱繫子、文政六年四月三日薨去二十歲、同月六日門號定、

准母待遇

〔續世繼三内宴〕かくて年もかはりぬれば、三年保元てうきんの行幸、白河後びふく門院后鳥羽にせさせ

給ふ、まことの御子におはしませねども、このゑのみかどおはしませぬ世にも、國母になぞらへ

られておはします、いとかしこき御さかえなり、又春宮二條行啓ありて、姫君の御母鳥羽皇女母としてはいし奉り給、この姫宮と申は、八條院と申なるべし、

〔園太曆〕文和元年十二月五日、今度官外記匡遠宿禰、勘例抄之、附合年々一人之、師茂清澄、其趣注之、

匡遠 師茂

中宮藤原温子昭宣公三娘、醍醐天皇養母

延喜七年六月八日、於東七條宮御事、

匡遠 依遺令不任葬司、素服舉哀同停止之、又有警固固關之事、

同九日中宮御葬也

師茂 同日止月次神今食、是日令紀傳明法博士勘申、中宮崩時天子御服有無之狀、可有三日御服者、

匡遠 則召縫殿寮、仰御服御衣可縫供之、由賀布自內藏寮進之、